







『March wind』 寸評

- ・自由闊達な表現に穏やかならぬ風を見る
- ・全てのパートに見せどころがあり音域の利用も自在
- ・アーティキュレーションも作品に伸びやかであったり、全員で刻んでみたりと様々な表情を細やかに与えている
- ・m.9 主題の模倣が2拍間隔で出てくるのが差し迫った印象をもたらす
- ・全体に上行形のフレーズが入り乱れる中、m.13-14で下行形の流れが一息つかせる←上手い構成

完成度をさらに上げるために

- ・m.4 b.1-2 借用和音ドッペルドミナント（属和音Bの属和音F#）の属七で第二転回形かつ第5音下方変位（C⁴）さらに根音省略形でF#がない
- ・m.7 b.1-2 Cl.の記譜  → 
- ・m.14 b.2 Cl.  これではタイとみなして四分音符に演奏されてしまうので  または  とするとよい
- ・m.15 Cl. *mp* から小節いっぱい  を振るだけでも意図するところは伝わる
- ・m.13 *Conbrio* → *Con brio*
- ・曲頭の *Vivente* は *Vivo* の方が一般的
- ・m.9 b.1 Ob. *p* はそのまえに付けてあるのでここはなくてもオーケイ
- ・m.16 四分音符の長さの方が終結の感覚がより強まる

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

たいへんよかったです。

持麿 勉